

TAWAWA

地域で生きる障害者を支える会通信

発行 2007年4月27日

77号

NPO法人「地域で生きる障害者を支える会」

住所：横浜市港北区下田町6-31-8

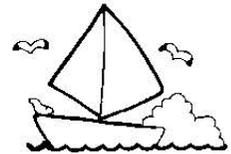
活動ホーム「しもだ」内

TEL 045-562-3600

FAX 045-562-5991

きめ細かく暖かな活動を

障害者の地域生活を支える



NPO法人 地域で生きる障害者を支える会総会の報告

・4月26日(木)午後、活動ホーム「しもだ」で平成19年度第一回総会が開催されました。内容は、つぎのとおりです。

1. 平成18年度(18年6月9日～19年3月31日)事業報告について 承認
2. 平成18年度収支決算報告について 承認
3. 平成19年度事業計画案について

◇重度重複障害者が共に暮すグループホームの支援

(運営支援、職員やスタッフの人材の募集と育成、障害者の環境整備など運営費支援)

◇地域で暮す重度障害者の生活支援(レスパイト支援、余暇活動支援、など)

◇啓発・地域交流事業

＝たわわ通信の発行(8月を除く毎月)・地域への回覧、など地域の方への情報の発信

写真展の開催(7/2～6)と重度障害者の生活を紹介する冊子の発行

地域交流イベントの開催(バザー・グループホーム共催)

デイサービス「活動ホームしもだ」地域交流バザー、秋祭りへの参加

◇学習会(講演会、毎月のミニ学習会、見学会など)

人の気持ちを察する

横浜リハビリテーションセンター
秋田 裕

知人のHさんから、職場が変わったことを知らせるメールが届きました。Hさんと私とは、神奈川リハセンターと横浜リハセンターで一緒に働いた仲間で、アシスティブ・テクノロジーがご専門。コンピュータを利用した会話補助装置などを開発している、この分野での日本の第一人者です。

そのHさんのホームページには、彼がこの仕事に進むことになったきっかけの逸話があります。学生時代に、えりも岬の漁村でコンプ獲りのアルバイトをしたときのこと、重い脳性まひがある人と出会ったのですが、「今から思うと運命的な出会いでした。開拓農家に一晚泊めていただき、言葉がうまく出せない彼と、表情や身振りを交え、互いに会話をしました。それはとても不思議な時間でした。気持ちが通じるのを感じました。今の自分があるのは、彼に出会えたおかげです。」

人と人とのコミュニケーションというのは、口から発して耳に届く言葉のやりとりだけではなく、Hさんの経験のように、身振り・手振りや表情などによっても、気持ちや考えを伝えることができます。お互いの気持ちを通じ合わせるために、感覚を研ぎ澄ませて相手の気持ちを察する。大切にしたいことです。

デイサービス「活動ホームしもだ」地域交流バザー、秋祭りへの参加

承認

5 役員について (次年度までに増員の方向で検討中) 承認

・フリー討論

役員の人選の件。地域との交流は必要。会をもっと広げどう育てていくか。等

ご入会、ご継続 ありがとうございます [敬称略]

《賛助会員》

松永 重年	石井 正夫	菅井とし子	福島 網子	渡辺 隆利
渡辺アツ子	渡辺 洋一	渡辺 英一	渡辺 未帆	

(18年7月30日現在)



めがねの声

今年は つゆがなかなか明けません 夏になってしまいました。

もう8月になるのかと 驚いています。

この前 母と 町のバリアフリーを考える会に参加しました。

港北区や社会福祉協議会の地域福祉計画についてのお話しでした。港北区でのいろいろな地域でのようすを聞きました。

私は 会議に出て「お手伝いをして欲しい人と お手伝いしたい人を どうやってつなげるか」と言うのが 一番大切なことだと思いました。

* * *

会議は たまたま会場が取れなかったのか 港北公会堂の2階でありました。

2階に行くのには 階段を上るしかなくて 母は事務所の職員に 一緒に車イスを手伝って欲しいとたのみました。職員は年配の人で ハイハイという感じではなく ちょっと困ったいやそうな 顔をしていましたが 手伝ってくれました。

今 横浜高島屋の 地下の入り口は 短い階段がありますが 折りたたみの 車イスのリフトがあります。韓国の美術館にも 古い階段に 新しい折りたたみのリフトがつけられていてとても親切でした。

港北公会堂でもつけられると思います。今までも ときどき 私たちは使っていますが ずっとそのまま階段だけです。

帰りは、母がおぶって 参加者の人が車イスを 持ってくださいました。講師だった区役所の職員の方も手伝ってくださいましたが「リフトを付けてくださいね」と言って みんなで大笑いになりました。

階段しかないのは 知っていましたが でも使っていかなければ 直らないので出かけました。いろいろな方に 迷惑を掛けたりするのが いつも とても 心苦しいのですが これからも頑張って どこへでも行こうと思います。

大原 友子

今月のよつばホーム

よつばホーム

ようやく梅雨も明けていよいよ暑い夏がやってきますが、みなさんいかがお過ごしでしょうか。入居者のみんなも夏バテしないように、しっかり体調を整えていきたいと思えます。

さて、よつばホームでは小規模ながらも家庭菜園をしています。種類は、ミニトマト、とうがらし、ピーマン、かぼちゃ、ヤーコンです。

かぼちゃとヤーコンは今ひとつでしたが、他の野菜はしっかりと育ってくれました♪

収穫担当は主に勢津子さんが担ってくれています。朝、部屋からチェックして「トマトが真っ赤になっているよ～」と職員に教えてくれ、早速ハサミを持って外に収穫に行きます。収穫したミニトマトとピーマンは朝食のサラダやスープになり、とうがらしはヘルパーさんに調理していただき、『唐辛子味噌』となつてごはんのおともに。



味のほうはといいますと、ミニトマトは甘くておいしいとまずまずの

評判です。ピーマンもおいしく出来て、しかも形良く育ってくれました。夏休みには入居者みんなで楽しく収穫したいと思います♪

第2 よつばホーム

今月は外食の様子をお伝えいたします。入居者の誰かがデイサービスでのショートステイ（活動ホームでの泊まり）や実家に帰る人で、入居者の人数が少ないとき等スタッフの車を使って近所のファミレスまで出掛けることがあります。

これまで出掛けた事のあるファミレスは、新吉田町や新羽、綱島付近、たまには港北ニュータウンまで足を延ばすこともあります。

和食、洋食、中華 何が食べたいか… その日の気分で決まります。

外食時の持ち物で忘れてはいけないのが【キッチンバサミ】です。入居者の中には上手に食べ物を噛み砕けない人もいるので、はじめにある程度刻んでおく必要があるのです。

夕方、入居者が帰宅し、いつもなら順番に入浴ですが、外食の日は後回し。17時過ぎ余裕を持って出発です。みんな外食は好きなようでニコニコです。メニューを見ているだけでも楽しい気分になってきます。人が食べている物っておいしそうに見えてきませんか？ すこしずつ交換したり…。ドリンクバーがある所も多いので、何種類か飲んだりと楽しく過ごしています。夏休みにもまた外食できたらと考えています。

